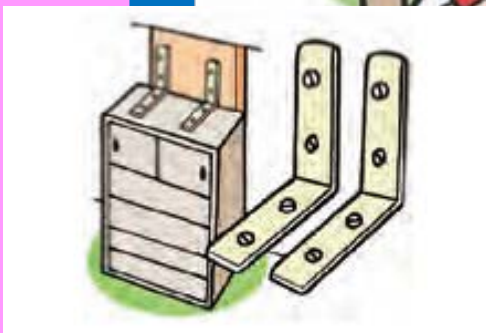
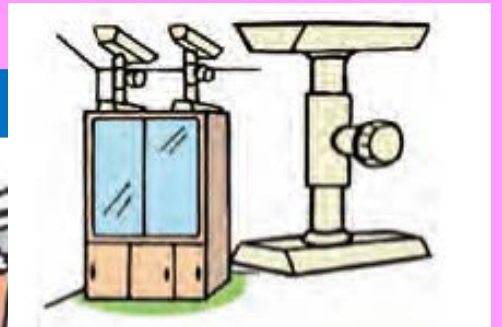


大規模地震に備えて

家具転倒防止対策について



平成31年2月
保土ヶ谷区民会議
災害分科会

目次

I. まえがき -----	1
II. 家具転倒防止対策について-----	1～9
1. 何故必要か？-----	1
2. 大地震発生時高層マンション等の教訓 -----	2
3. 地震時の家具類の動きと被害状況-----	3～4
(1) 震度と揺れ方 -----	3～4
(2) 家具の置く方向・位置による揺れ方 -----	4
4. 転倒防止対策器具について -----	5～6
(1) 転倒対策関連器具の種類と機能 -----	5
(2) 対策器具の効果 -----	6
5. 家庭用大型家電等の対策と留意事項 -----	6～7
6. 安全な家具の配置と置き方 -----	7～8
7. 器具の効果的な取付け方法 -----	8～9
III. あとがき -----	9
IV. 参考資料 -----	10～16
1. 地震時の行動のポイント(参考資料-1) -----	10
2. 家庭内の対策チェックリスト(参考資料-2)-----	11
3. 我が家の危険箇所探し(家庭内 DIG の実施) (参考資料-3) -----	12～13
4. 主な地震対策補助金制度の紹介(参考資料-4)-----	14
5. 感震ブレーカーについて (参考資料-5)-----	15～16

I. まえがき

保土ヶ谷区民会議は、5つの分科会でテーマを決めて取り組んでいます。

私達「交通分科会」「災害分科会」（21期までは「交通・災害分科会」）では、平成26年4月～平成28年3月の間大地震の初期行動の対応として「地震発生時の避難について」と「地震発生時の安否確認について」の冊子を作成し、各地域で活用していただいています。

平成28年4月～平成30年3月は、大地震発生時、身を守る上で一番重要な「家具転倒防止対策について」取り組んで来ましたので、そのポイントをまとめた冊子を作成しました。

II. 家具転倒防止対策について

1. 何故必要か？

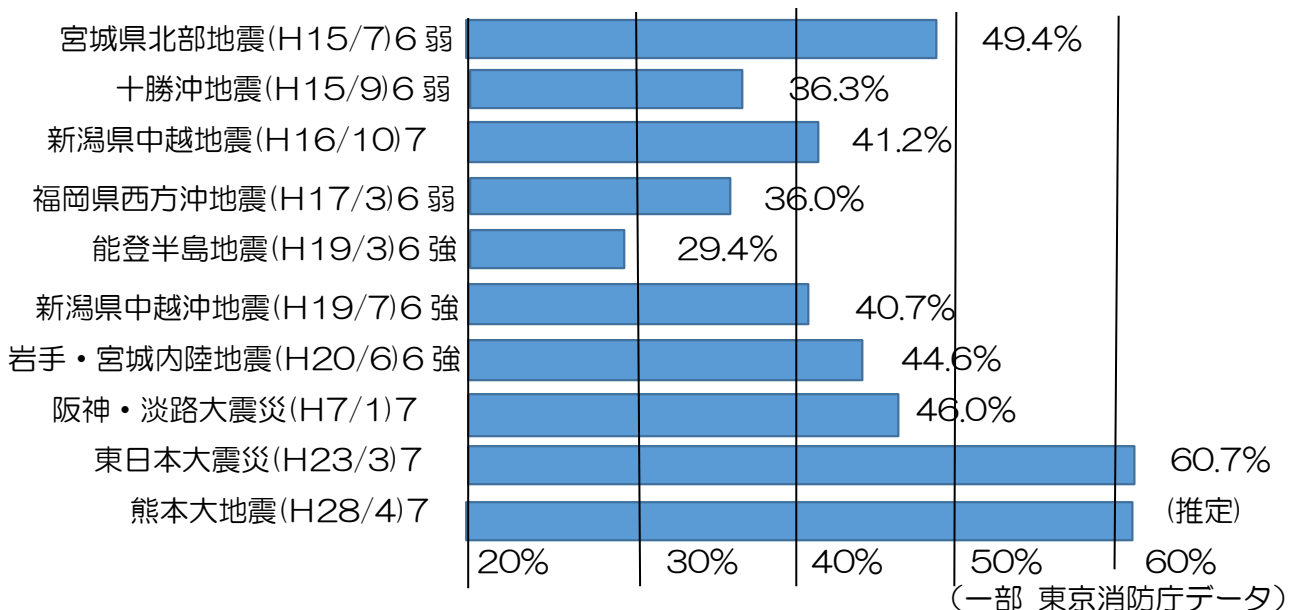
横浜市で震度6弱以上の地震が発生する確率は30年以内に82%といわれています。

我が国で近年発生した大地震によってケガや負傷した原因は、都市型では80%強、それ以外では約30～50%の人が家具類などの転倒・移動や落下によるものです。

避難路となる出入口がふさがれたり、落下や転倒で破損した食器やガラスでケガをするなど、多くの被害が発生しています。

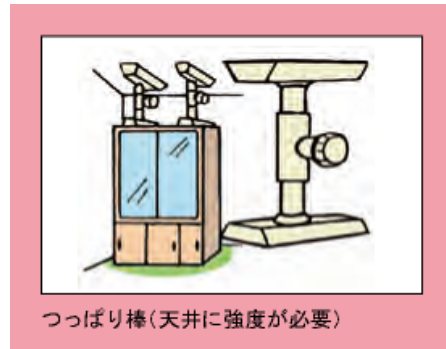
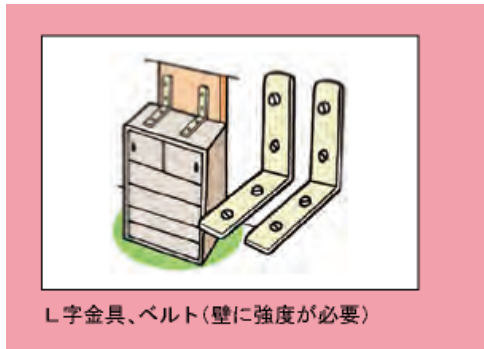
二次災害として、ストーブなどの転倒や、電源復旧時などに電気製品から発生する出火などで大火災発生被害も起きています。

近年発生した地震における家具類の転倒・落下・移動等が原因のケガ人発生割合



阪神・淡路大震災では、家屋の倒壊とともに家具転倒による下敷きなどで多くの方が圧死・窒息死により亡くなられております。自助の重要な項目として「家具転倒防止対策」は必ず必要であり、被害を低減する大きな対策です。

気象庁の発表によると、『震度5強』以上の地震で、タンスなどの重い家具が倒れ、テレビが台から落ちる事があります。室内での居住者被害を防ぎ、安全な避難経路を確保するためにも、家具を固定しておくことは重要です。



2. 大地震発生時高層マンション等の教訓

○ 東日本大震災時、都内における階層別の家具類等の転倒・落下・移動の割合は以下のとおりでした。

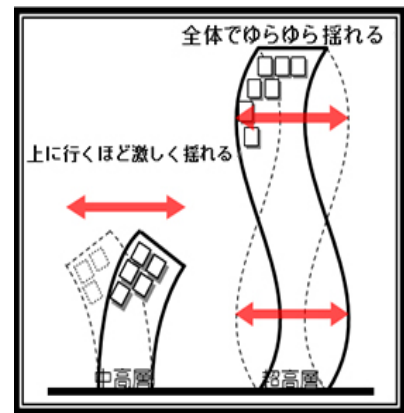
11階以上では	47.2%
6階～10階では	31.9%
3階～5階では	23.8%
1階・2階では	16.8%



つまり高層階になるほど、家具の転倒・落下・移動が起きやすい。
これは長周期地震動によるものと考えられる。

○ 長周期地震動の傾向

1. 海の波の様な伝わり方をする。
2. 地震が終息しても建物が数分間揺れる事がある。
3. マンションなど高層階が被害を受けやすい。



1. 家具類の転倒・落下の他、移動が多く発生する。(キャスター付きの家具類が特に激しく移動しやすい)
2. 家具の移動により、負傷や、通路をふさがれる。
3. タンス・机などの引き出しが飛び出して倒れる。
4. 水槽・タンクなど、中の水が大きく揺れ倒れる事がある。
5. 吊り下げてある照明などが大きく揺れ、落下する。



3. 地震時の家具類の動きと被害状況

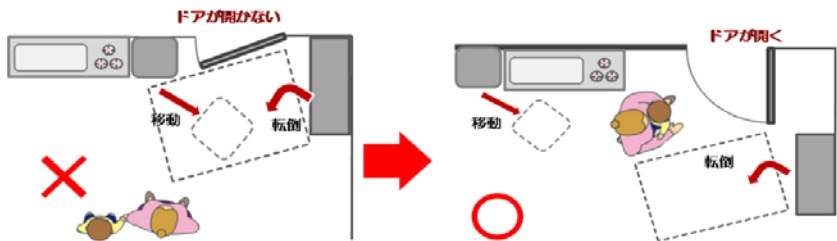
(1) 震度と揺れ方

○ 地震時における家具の動きと想定被害は次の事が考えられます。

(家具の動き)

- ① 転倒
- ② 落下
- ③ 移動
- ④ 家具類等の変形
- ⑤ 収納物の落下
- ⑥ 扉の開閉・ゆがみ
- ⑦ 引き出しの飛び出し
- ⑧ ロッキング現象(※)

避難通路をふさがない配置にします。



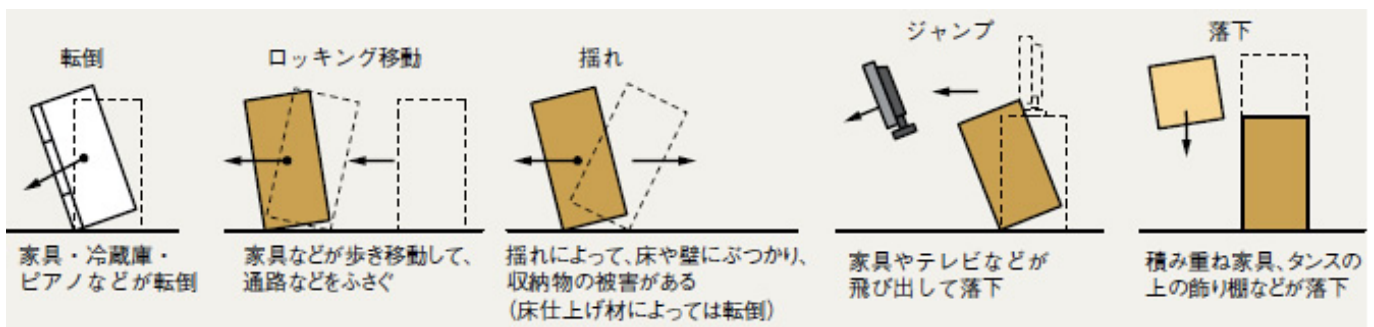
(被害想定)

- ① 周辺の人に重大な被害を与える(負傷する)
- ② 避難通路をふさいでしまう。
- ③ 火気器具、照明などの転倒・落下で火災発生
- ④ 収納物が破損する。
- ⑤ 停電



※ ロッキング現象

地震等で建物が振動する時、家具が前後左右に揺れたり浮き上がる現象で、ロッキングしながら移動し転倒することで避難通路がふさがれる。



(高知県庁ホームページより)

○ 震度

震度とは地震の揺れの大きさを階級制であらわす指標で、地震の規模をあらわすマグニチュードとは異なります。震度は1996年以降、次の様に定められています。

震度	揺れ方の状況
0	人は揺れを感じない。
1	室内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
2	室内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの人が驚く。 電灯などの吊り下げ物は大きく揺れる。 座りの悪い置物が、倒れることがある。
5 弱	<ul style="list-style-type: none"> 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 棚にある食器類や本が落ちることがある。 固定していない家具が移動することがあり、不安定な物は倒れることがある。
5 強	<ul style="list-style-type: none"> 物につかまらなると歩くことが難しい。 棚にある食器類や本が落ちるものが多くなる。 固定していない家具が倒れることがある。 補強されていないブロック塀が崩れることがある。
6 弱	<ul style="list-style-type: none"> 立っていることが困難になる。 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
6 強	<ul style="list-style-type: none"> はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべり・山体の崩壊が発生することがある。
7	<ul style="list-style-type: none"> 耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものがさらに多くなる。 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

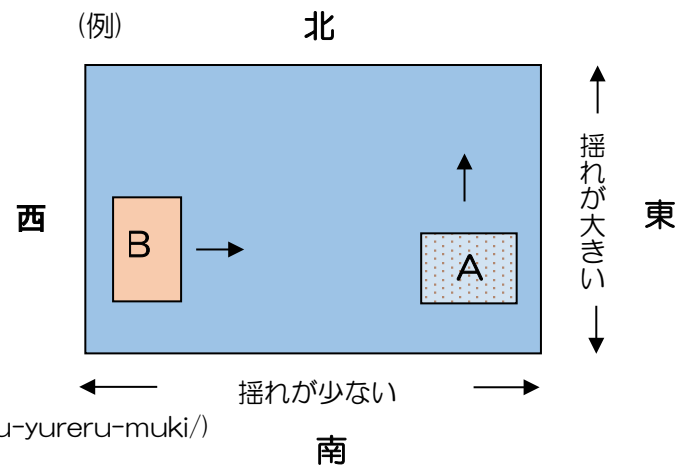
(気象庁ホームページより)

(2) 家具の置く方向・位置による揺れ方

地震の揺れる方向を予測することは困難です。しかし、建物の揺れる方向は、細長い構造の建物の場合、長い方向には、揺れが少ないことが分かっています。

長方形の建物の場合、長い辺、例えば、東西に長い建物ならば、南北方向に大きく揺れる傾向にあります。

(右図[A]の家具の方が大きく揺れる。)

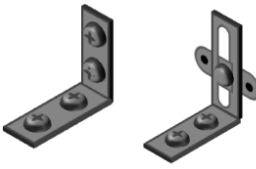

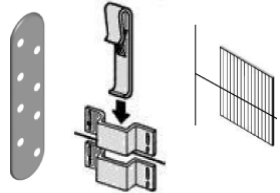

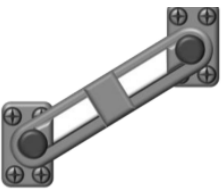
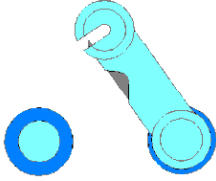

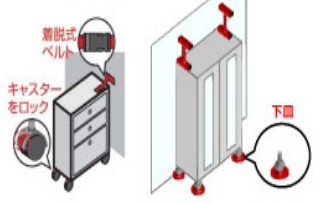
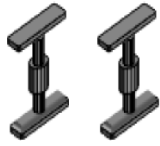
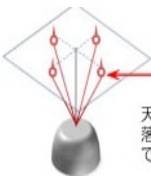

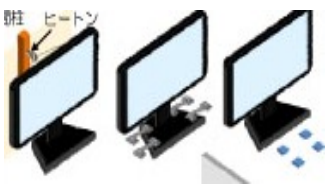


(インターネットより「お家が好き」

<https://favorite-house.com/jisin-taorenikui-kagu-yureru-muki/>)

4. 転倒防止対策器具について

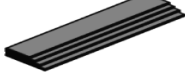




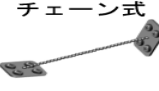
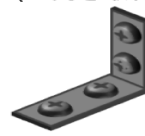
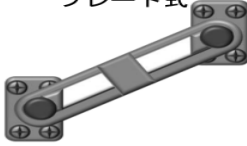

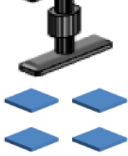
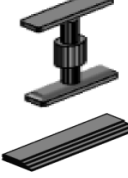
(1) 転倒対策関連器具の種類と機能

器具の種類	形状	器具の種類	形状
L型金具 <ul style="list-style-type: none"> 家具と壁を木ネジやボルトによって固定するタイプ 壁に強度が必要 効果が高い 		マット式(粘着マット式) <ul style="list-style-type: none"> ゲル状の粘着性のあるマットを家具や電気製品の下に敷くタイプ 比較的小さな家具類、電気器具に適す 	
上下家具用連結器具 <ul style="list-style-type: none"> 上下に分かれている家具を連結し、転倒・落下を防ぐ器具 効果が高い 		ガラス飛散防止フィルム <ul style="list-style-type: none"> ガラス戸の両面に貼ることにより、ガラスの破損や収納物の飛び出しを防止する 片面に貼る場合は外側のガラス面に貼る 棚板にゴムシートなどを敷く 	 <p>透明シート</p>
プレート式器具 <ul style="list-style-type: none"> 家具と壁にネジ止めし金具を金属プレートなど結ぶタイプ 効果が高い 		扉開放防止器具(開き戸ストッパ) <ul style="list-style-type: none"> 粘着タイプやチェーンタイプ・掛け金タイプがある 重量のあるものが入っている場合は、ネジ固定できるタイプが望ましい 	
ベルト式・チェーン式ワイヤー式 <ul style="list-style-type: none"> 家具と壁にそれぞれネジ止めした金具を連結する 壁に強度が必要 		キャスター皿 <ul style="list-style-type: none"> キャスターの下に置き、家具類の移動防止 移動防止に併せて転倒防止も実施する事が望ましい 	 <p>着脱式ベルト キャスターをロック 下留</p>
ポール式(突っ張り棒) <ul style="list-style-type: none"> 家具と天井の間隙に設置する突っ張り棒状のタイプ 天井に強度が必要 		吊り下げ照明器具補助 <ul style="list-style-type: none"> チェーンなどで固定し落下を防止 	 <p>天井にヒートンを打ち、揺れ・落下防止のためワイヤーなどで連結します。</p>
ストッパー式 <ul style="list-style-type: none"> 家具の下部の前側にくさび状にはさみ込み、家具を壁側に若干傾斜させ転倒を防ぐタイプ ポール式と併用すると効果が出る 		ヒートンとロープによる固定 <ul style="list-style-type: none"> 壁にねじ込んだヒートン(リング状木ネジ)と家電製品等をロープ・クサリなどで結ぶ 壁の強度が必要 	 <p>壁にヒートン</p>

(東京消防庁より)

(2) 対策器具の効果

転倒防止器具は、震度6強の揺れを再現した実験で、その効果を測定しました。

使用条件	器具の効果				
	小				大
単独使用	<p>ストッパー式</p>  <p>マット式</p> 	<p>ポール式</p> 	<p>L字金具 (スライド式)</p>  <p>ベルト式</p>  <p>チェーン式</p> 	<p>L字金具 (上向き取付け)</p>  <p>プレート式</p> 	<p>L字金具 (下向き取付け)</p> 
組合せ使用	<p>家具と天井に十分な強度が必要</p>		<p>家具、壁面や器具に十分な強度が必要</p>		
	<p>ポール式 + マット式</p> 		<p>ポール式 + ストッパー式</p> 		

Point

- 家具をL型金具などで壁に**直接ネジ固定する方法が最も効果が高い**。
- 家具の上部と天井の間に、ポール式やすき間家具などで家具を固定する場合は、ストッパー式や粘着マット式を併用すると効果が高い。
- ポール式の場合は、天井に下からの突き上げに耐える強度が必要で、強度がない場合は、当て板等で補強する必要がある。
- マット式やストッパー式の器具の単独使用は効果が小さい。家具の重量、奥行きなどの条件によっての違いはあるが、一般に大きな家具には適していない。

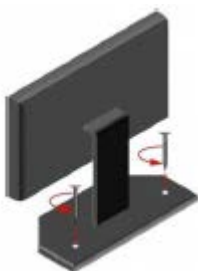
(東京消防庁「地震に対する家具類への対策」より)

5. 家庭用大型家電等の対策と留意事項

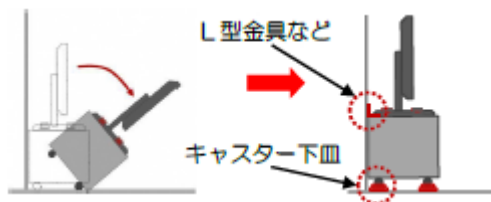
テレビ

- 床、壁に固定されたテレビ台とテレビを直接固定する方法が最も確実。
- テレビは重心が高いため、テレビをテレビ台に固定したのみでは、テレビ台ごと転倒することがあるのでテレビ台ごと固定する。
- 壁からヒートン及びロープ等で転倒防止する場合、壁の強度のある部分に取り付ける。
- 粘着マットで固定する場合は、マット取り付け部分に凸凹が無いこと。
- キャスター付テレビ台は移動防止対策を充分に行うこと。

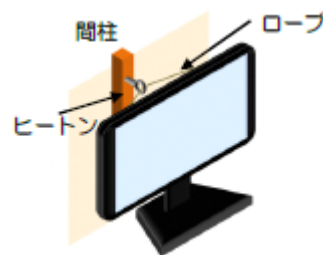
a 直接固定



b テレビ台ごと固定



c 壁に固定



d 粘着マット



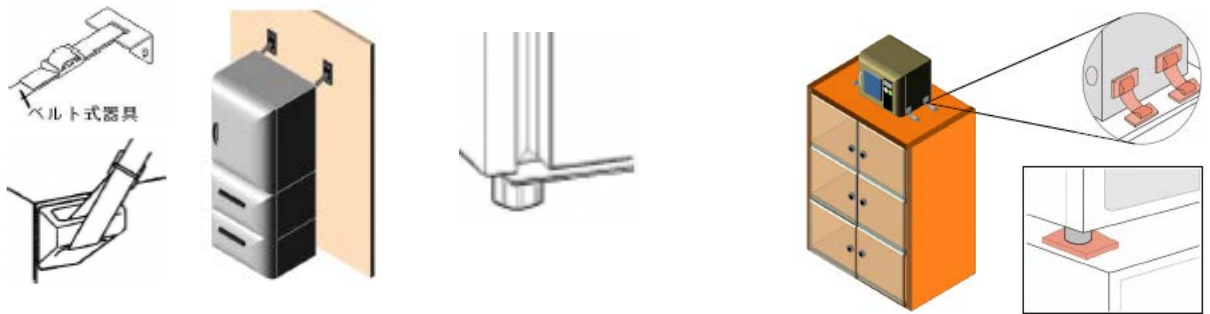
冷蔵庫

- a 冷蔵庫には、背面上部にベルト取り付け部分があるので、壁とベルトで連結する方法が効果大きい。この場合は、壁に強度があることが必要。
- b 冷蔵庫の底には移動式のキャスターがついているので、足の部分のロックを行うとともに、キャスター皿を取り付ける。
- c 冷蔵庫は移動や転倒した時に、避難の障害にならない様に置き方を工夫する。

a ベルト

b キャスターロック

電子レンジ



電子レンジ

- a 電子レンジ本体を台又は壁に固定するとともに、レンジ台も床または壁に固定。
- b 固定方法はストラップ式や粘着マット式の方法も効果がある。

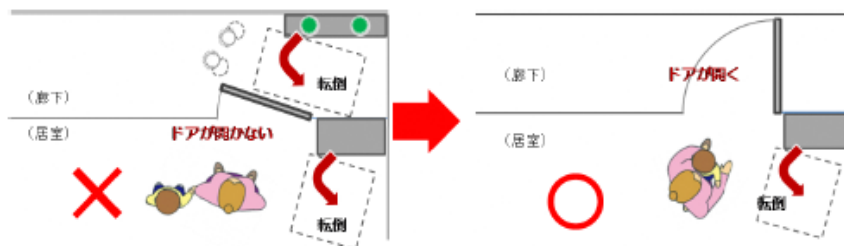
ピアノ

- a ピアノは非常に重量があるので(グランドピアノは250kg以上)、地震時の衝撃によって脚が折れるケースもある。固定方法については必ずメーカーに確認する。
- b ピアノにはキャスターが付いているので、確実な移動防止対策が行われている場合以外は寝室には置かないようにする。

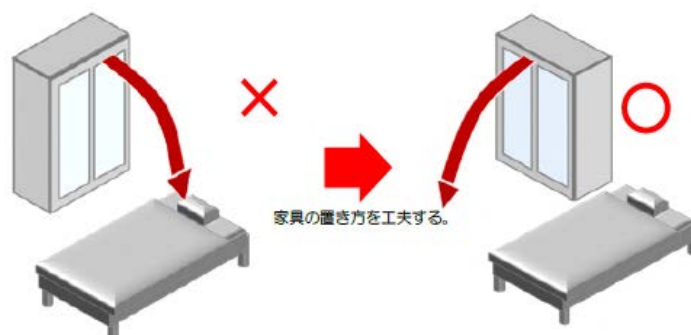
6. 安全な家具の配置と置き方

家具類の転倒防止は大変重要ですが、住宅の立地条件や構造など、さまざまな条件によって揺れ方が違うので、転倒防止器具を取り付けただけでは万全ではありません。家具を寝室や出入口などから遠ざけるなど、安全な家具類の配置も大変重要です。

(1) 家具は部屋の出入口には置かない。万一倒れても、避難できる通路が残せる配置を考える。



(2) 就寝場所は家具の側方とするか、正面に置く場合は家具の高さ以上の十分な距離を取る。

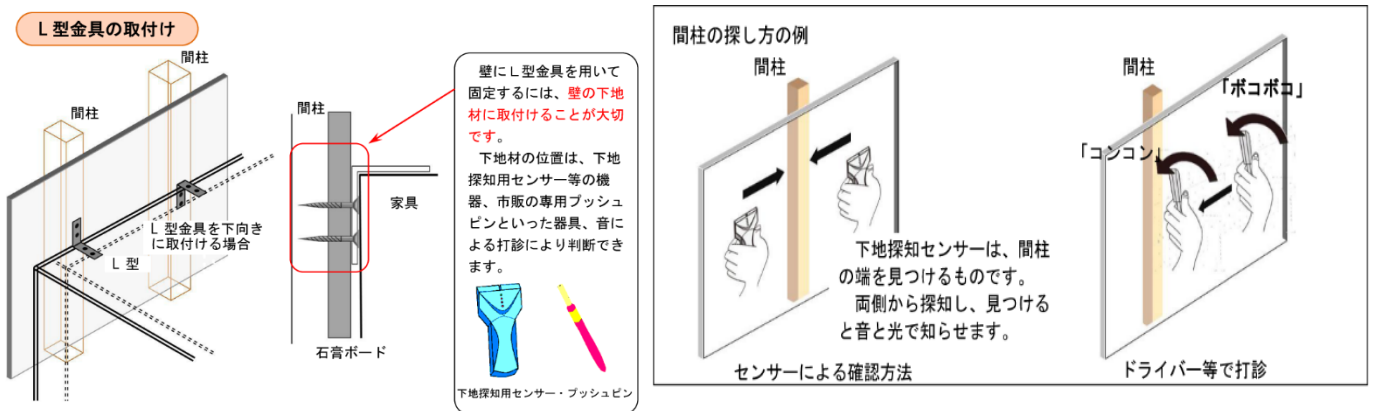


- (3) 家具の前面にはストーブなどの火気は置かない。
- (4) 家具類を倒れにくくする原則は重心を下げる。食器棚や本棚などは重いものを下段へ。
- (5) 食器棚の棚板にゴムシートを敷く。また扉には開かない対策をする。閉じたときに自動的にロックされるタイプのものを選ぶと良い。さらに食器棚やサイドボードのガラスには、ガラス飛散防止フィルムを貼る。
- (6) 棚やタンスなどの高いところに危険なものを載せない。
- (7) 上下に分かれている積み重ね家具は、上下を連結金具で固定する。

7. 器具の効果的な取付け方法

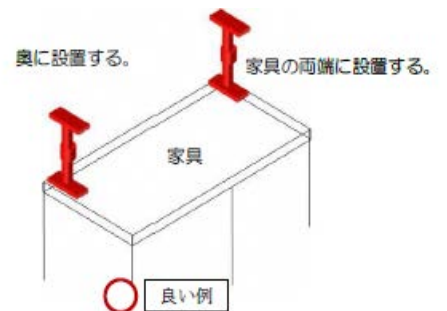
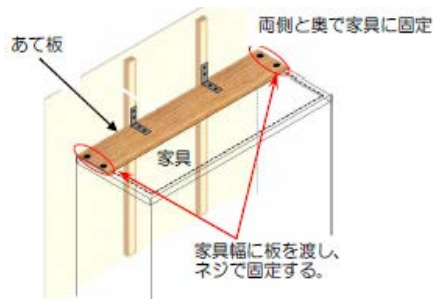
(1) まず器具を取り付ける壁や天井の強度を確認

- ・ 家具固定の効果を確実に発揮するためには、強度がある部分に固定
 - 壁の部分---棧や間柱(まばしら)、鴨居などが入っている部分
 - 天井部分---コンクリートの直天井、または普通の天井に強度が無ければ、天井と器具(つっぱり棒など)の間に厚板を挟むと良い。
- ・ 棧や間柱などの下地材の位置を探す時は、「探知用センサー」や下記の手法で確認



(2) 家具の天板に強度が無い場合のL型金具の取付け方法

- ・ 家具の天板の後ろ側にしっかりとした棧が入っていない場合は、家具の横幅全体に板を渡し、ネジ止めしてから金具を取り付ける。金具を取り付ける時は木ネジを使用すること。

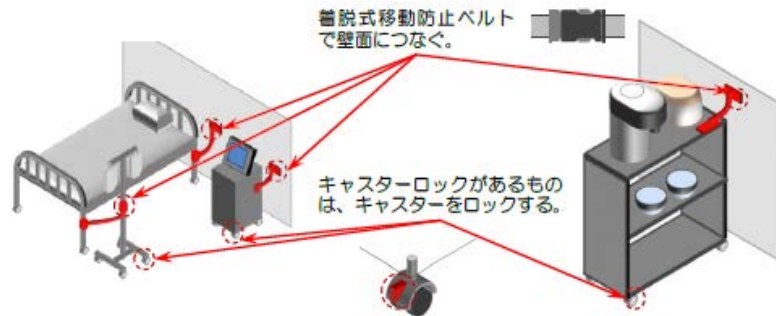


(3) ポール式器具、ストッパー式・マット式器具の取付け方法

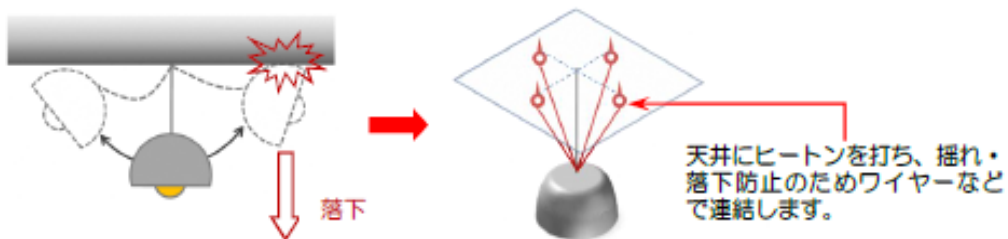
- ・ つっぱり棒などのポール式器具は、家具の後ろ側(壁側)に取り付ける。また家具の両側に必ず取り付ける。また、ストッパーの上下部分がネジ止め出来るタイプは、ネジで止めると効果が高くなる。
- ・ ポール式器具は、奥行きのない家具や、天井との間隙が大きい場合は不向き。

- ・ ストッパー式・マット式器具は、家具の端から端まで敷くこと。またそれらの単独使用は、大きな家具の場合は一般に不向き。

(4) 日常的に移動する家具類の移動防止対策は、移動以外は必ずキャスターロックを掛け、定位置がある場合は、壁や床にベルトなどで固定すること。



(5) 吊下げ式照明器具は、大きく揺れると天井に衝突し、落下の危険がある。この場合は、天井にヒートンを打ち、数本のワイヤーやクサリで直接止める。



(6) 賃貸住宅や分譲マンションなどは、勝手に壁に金具を取り付けることが出来ない場合があるため、管理組合または管理事務所に確認が必要。

また、最近の集合住宅に使用されている防露壁には、棧が入っていない場合があり、壁の種類が分からない場合は、確認してから取り付けること。

Ⅲ. あとがき

大地震は、過去の歴史から頻繁に発生する時期(活動期)と比較的少ない時期(静穏期)を繰り返しています。何回も述べましたが、大地震によるケガの原因は30~50%が家具の転倒・落下です。平成28年4月14日の熊本大地震時も家屋の倒壊・家具類の飛散が非常に多い状況でした。家具転倒によりケガをすると共助の担い手が減ることにもなります。

保土ヶ谷区民会議災害分科会では、私達に出来る減災として、自助の最も大きな内容のひとつが、家具転倒防止対策であると考え、この機会を捉えて、再度皆様に対策をしていただきたく、この冊子が一助となれば幸いです。

「自分の命は自分で守る」を実践しましょう。

地震時における災害を最小限にするためには、地震が起きた時に、自分や家族がどの様に行動すれば良いかということをおおきく考えておくこと、また家族で話し合っておくことが大切です。

地震発生時の行動



まず自分の身の安全を守る

- a 揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた場合は、身の安全を最優先に行動する。
- b 丈夫なテーブルの下など、物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない空間や場所に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。
- c 高層階では、揺れが数分間続くことがあり、家具が大きく移動する恐れがある。

○ シェイクアウト

2008年にアメリカから出た、防災訓練で、シンプルな「安全行動1・2・3」で、まず

- ① DROP (まず低く)
- ② COVER (頭を守り)
- ③ HOLD ON (動かない)

の3つの行動で、誰でも出来る基本的な安全行動。

日本シェイクアウト提唱会議



地震直後の行動

- a 落ち着いて火の元を確認し、初期消火。揺れが収まってから、あわてずに火の始末をする。
- b あわてた行動はケガのもと。すぐに外へ飛び出さない。
- c 窓や戸を開け、避難する出口を確保する。
- d 門や扉や壁には近寄らない。



地震後の行動

- a 火災発生時や、津波時など自宅にいると危険な場合は「いっとき避難場所」または「広域避難場所」に避難する。(自宅に危険のない場合は敢えて避難の必要はありません)
 - b 正しい情報を確認して、すみやかな行動を。ラジオ・テレビなどから確かな情報を得る。
 - c 確かめ会おう、我が家の安全を。また隣り近所の安否確認。家族と近所の方の安全を確認。
 - d 近隣と協力し合って、ケガ人の救出・救護をする。
 - e 避難する時は、必ず電気のブレーカーを切り(落とし)、ガスの元栓を閉め、電気・ガスの安全を確認する。
- (以上東京消防庁資料より一部抜粋)



チェック項目は徳島県「家庭防災会議」チェックシートより

具体的な地震災害をイメージしながら、思いつくことを話し合ってみましょう！

地震発生！その時 どうすればよいか！

- 緊急地震速報を聞いたとき
- 家の中で揺れを感じたとき
- 台所で火を使っているとき
- エレベーターの中にいるとき
- 外出しているとき(お店の中や路上、バスの中など)



備蓄はできていますか？

- 避難するときのため、必要最低限の持ち出し品を準備していますか？
- 水や食料を3日分程度備蓄していますか？
- 必要な生活用品の備蓄をしていますか？
- ローリングストックをしていますか？
- 消火器や救急箱が所定の場所に置いてありますか？



自分の家は大丈夫ですか？

- 家の危険箇所を確認・改善していますか？
- 住宅の耐震診断をしましたか？
- 倒れやすい家具・家電の固定やガラスの飛散防止対策をしていますか？
- 部屋に応じて家具の向きや配置を考えていますか？
- 通路や出入り口付近に邪魔なものを置いていませんか？



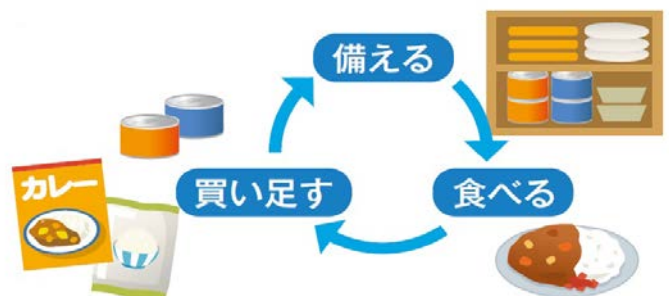
避難のルールは決めていますか？

- 自分の住んでいる地域の危険性を知っていますか？
- 避難場所・避難所・安全な避難ルートを確認していますか？
- 家族と連絡方法や集合場所を決めていますか？
- 防災訓練に参加していますか？
- 一人で避難できない家族の避難方法を近所に相談していますか？



「ローリングストック法とは」

ローリングストック法とは普段飲食するものを少し多めに買い置き、賞味期限の早いものから使い食べたら買い足し、無理なく常に新しい食糧を蓄えておく方法です。



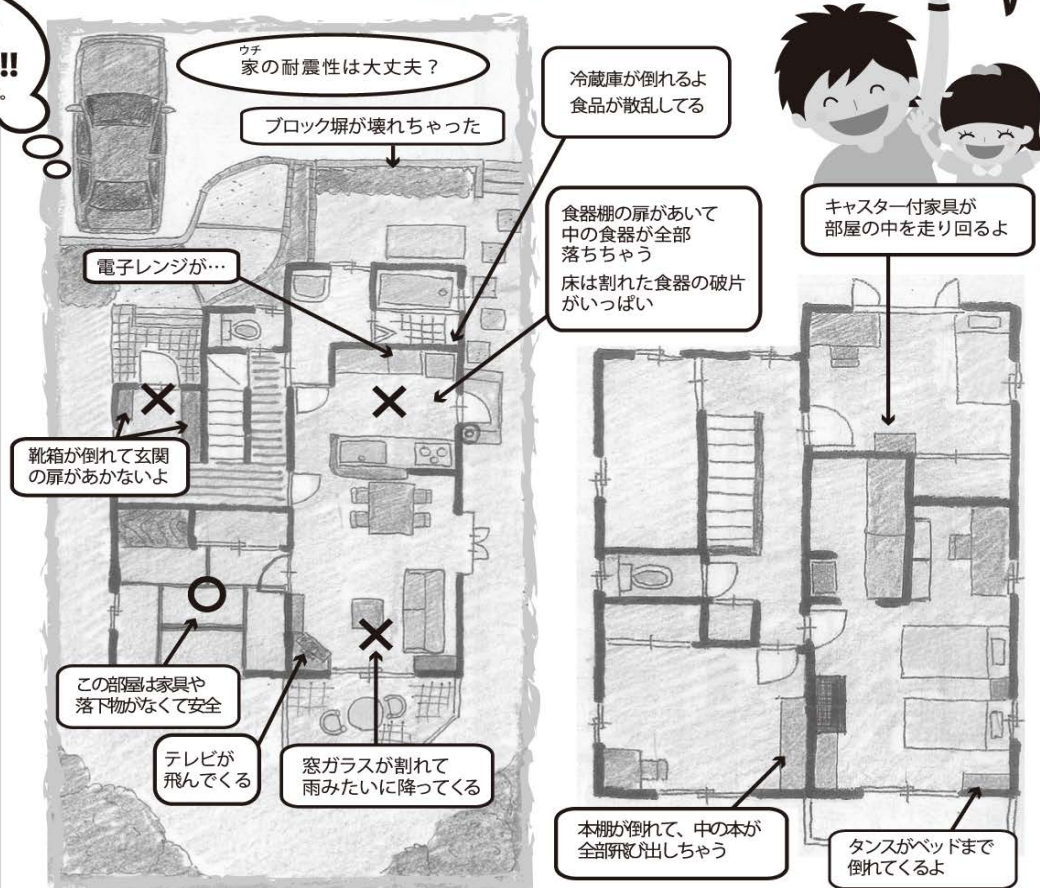
「DIG」って何？

- DIGとは「災害図上訓練」のことで、Disaster(災害) Imagination(想像力) Game(ゲーム)の頭文字をとったもので、大きな地図を囲みながら、参加者全員で災害時の対応策を考える、災害対応訓練のひとつです。
- この手法を使って、家庭で家の中の危険な場所を探し出し、大地震が来ても、我が家で暮らすことができる方法を考え出すことを「家庭内DIG」と言っています。

DIGをしてみると、よくわかる

地震が起きた時、わが家のここが危険！

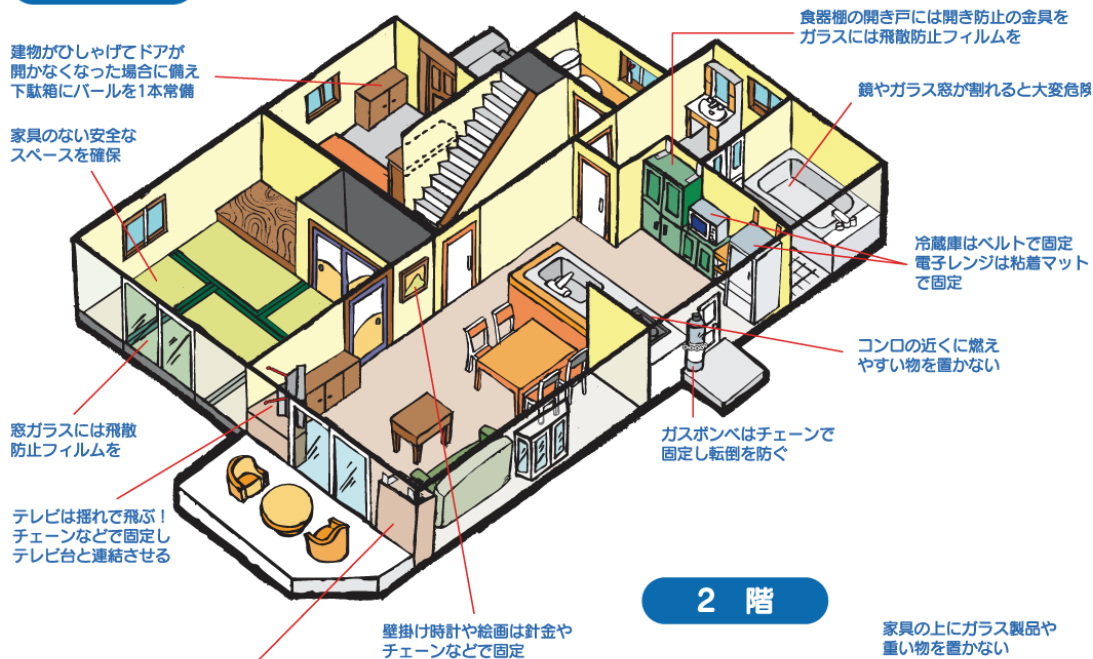
こんな感じで
まとめてみよう!!
あぶない場所がよくわかるよ。



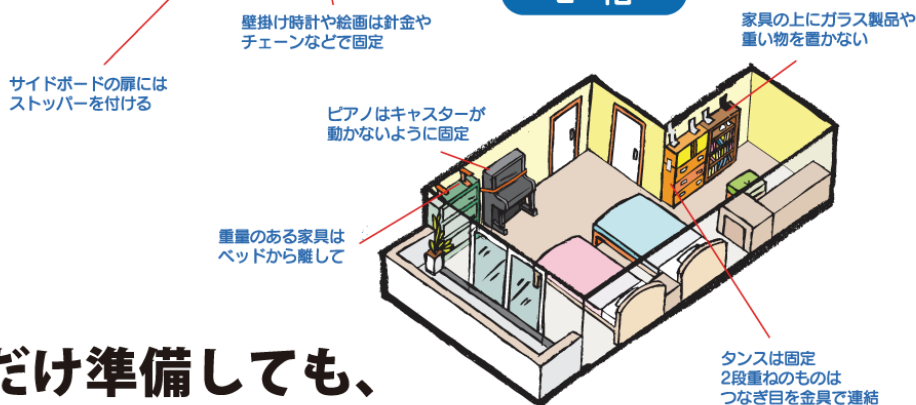
(静岡県危機管理部危機情報課 地震防災ガイドブックより抜粋)

- これまでの大地震では、家具の転倒や、棚や天井からの落下物、ガラスの破片などで多くの人がケガをしたり、命を落としています。タンスや食器棚などの家具の他、冷蔵庫やテレビなどの大型電気製品にも転倒防止・落下防止対策が必要です。またガラス部分には飛散防止対策も行ってください。
- 寝室には、なるべく家具は置かないように。置く場合は、置く場所を工夫して災害に備えてください。

1 階



2 階



これだけ準備しても、
家が倒壊してしまったら…。
やっぱり耐震化が大切です。

(静岡県危機管理部危機情報課 地震防災ガイドブックより抜粋)

下のステップで「我が家の危険度」をチェックしてみよう

ステップ1 (家の平面図を描く)

- 白い用紙に、自宅の平面図(間取りや家具類など)を描いてみよう。(12ページの図を参考に)

ステップ2 (危険な場所を探そう)

- 12ページのコメントを参考に、自宅の中や家の周りの危険な場所を探して、書き入れてみよう。

ステップ3 (元栓などの位置を確認)

- 電気のブレーカーやガスの元栓やマイコンメーターの場所を確認しよう。避難する時は切りましょう。

ステップ4 (避難経路の確認)

- 大地震後の家の中は、倒れた家具やガラスなどで屋外に出るのも大変。普段過ごす部屋や寝室から屋外へ避難する経路や避難方法(持ち物・服装など)を考えておこう。

ステップ5 (地震後の生活を考える)

- 地震後ライフラインが停止しても、我が家で生活するため次のことを考えておこう。
 - ① どの部屋で生活するか
 - ② 食糧・水はどうするか
 - ③ トイレはどうするか
 - ④ 寒さ対策はどうするか

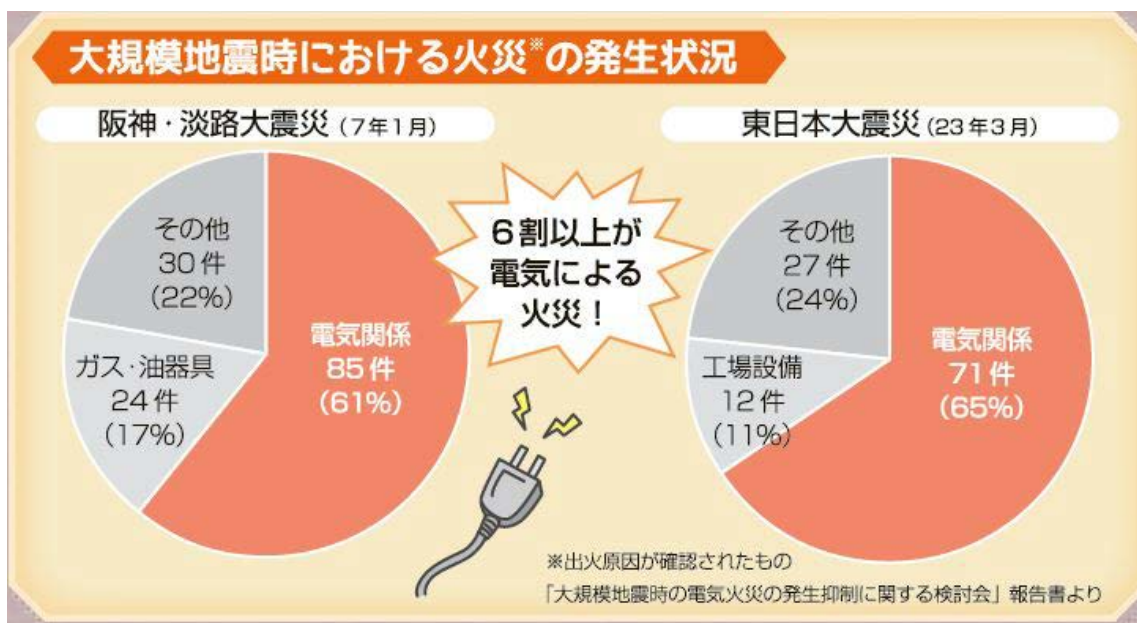
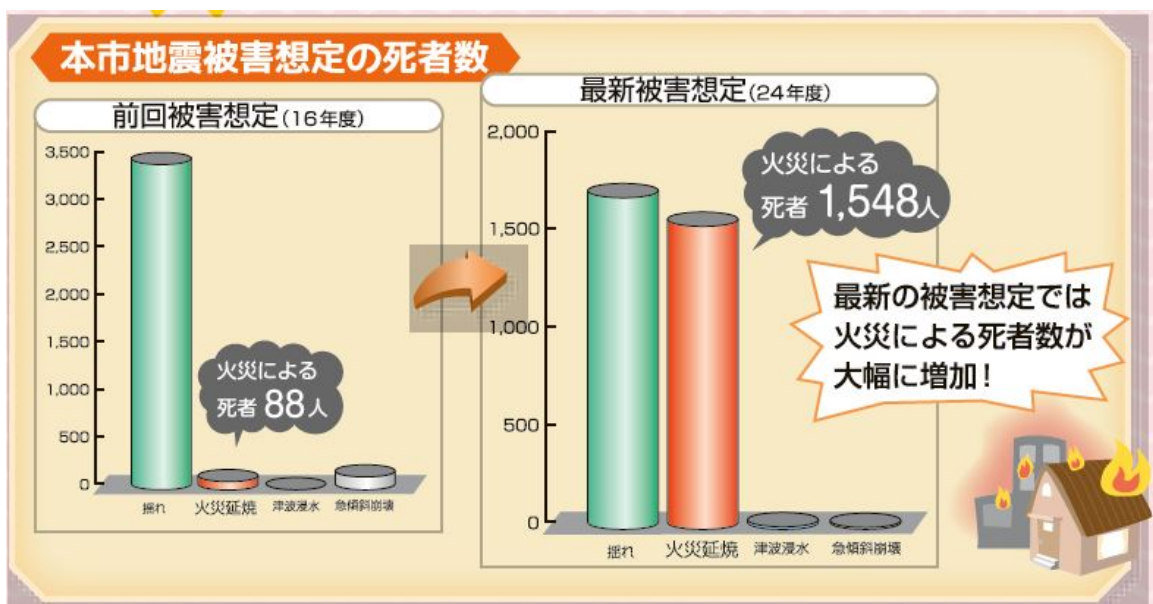
事業名	対象	補助内容	所管課・連絡先
1 家具転倒防止器具の取付代行	同居している家族全員が、次のいずれかに当てはまる世帯①65歳以上の高齢者②身体障害者手帳の交付を受けている方③愛の手帳(療育手帳)の交付を受けている方④精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方⑤介護保険法による要介護、又は要支援の認定を受けている方⑥中学生以下	転倒防止器具の取付代金を無料で受けられます。注1:取付は家具2個分までです。注2:器具の購入費用は自己負担となります。	総務局危機管理課 ☎ 671-3456
2 木造住宅耐震診断士派遣	昭和56年5月31日以前に建築確認を得て着工された2階建以下の在来軸組構法の木造住宅 【持家】自己所有で自ら居住する住宅【貸家・空家】賃貸住宅(空家を含む)、貸し店舗を含む住宅	持家:横浜市の事業委託先が無料で実施 貸家・空家:横浜市の事業委託先が有料(1万円)で実施	建築局建築防災課 ☎ 671-2943 一般社団法人横浜市建築士事務所協会 ☎ 662-2711
3 木造住宅の耐震改修費用の補助	昭和56年5月31日以前に建築確認を得て着工された2階建以下の在来軸組構法の木造住宅で以下の条件を満たすもの ・自己所有で自ら居住する住宅 ・耐震診断の結果、上部構造評点等が1.0未満と判定された住宅	【補助限度額】・課税世帯:75万円・非課税世帯※:115万円 ※世帯全員が、過去2年間、住民税の課税を受けていない世帯	建築局建築防災課 ☎ 671-2943 一般社団法人横浜市建築士事務所協会 ☎ 662-2711
4 感震ブレーカーの設置補助	○ 対象地区 保土ヶ谷区内の全自治会町内会	自治会・町内会を対象に感震ブレーカー(簡易タイプ)の購入・設置費用の一部を補助します。 補助率:1/2(上限額 器具1個当たり2千円補助)	保土ヶ谷区総務課 ☎ 334-6204
5 防災ベッド・テーブル、耐震シェルターの購入補助	昭和56年5月31日以前に建築確認を得て着工された2階建以下の木造住宅に居住する者(横浜市の補助を受けて、耐震改修を実施した者及び防災ベッド等を設置した者を除く。)	防災ベッド等の設置に要する費用(装置の本体費用)に対して補助【補助限度額】・防災ベッド、防災テーブル:10万円・耐震シェルター:30万円	建築局建築防災課 ☎ 671-2930

上記以外にも個人、自治会・町内会、マンション管理組合等を対象とした補助制度があります。詳細は、横浜市総務局危機管理室ホームページの「防災に関する補助金一覧」(<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kikikanri/hojyo.pdf>)をご確認下さい。

○ 電気による火災について

広報よこはま特別号(H27年6月発行)より
 横浜市の最新の被害想定(平成24年度)では、火災による死者数が、1,548人で、全死者数(3,260人)の約47%を占めています。また東日本大震災や阪神・淡路大震災で発生した火災(出火原因が確認されたもの)の6割以上が電気に起因する火災とされています。

大地震時の電気火災を防ぐには、地震発生時の揺れを感知して、自動的に電気を止める「感震ブレーカー」の設置が有効です。



○ 感震ブレーカー

「感震ブレーカー」は設定値以上の揺れを感知した時に、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に供給遮断する器具で、各家庭に取り付ける事で、出火を防止し、火災被害を軽減します。なお、基本的には避難する場合は、必ずブレーカーを落として下さい。

分電盤タイプ(分電盤に内蔵・接続した感震センサーが揺れを感知してブレーカーを落とす)

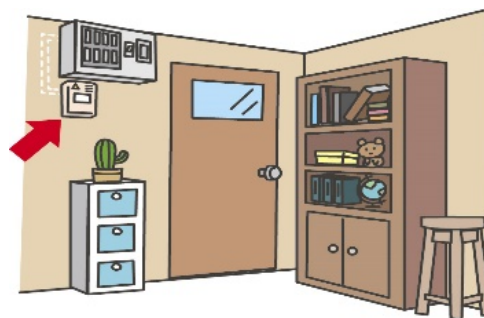
○ 基本型(感震センサー内蔵型)

(費用 7~8 万円・電気工事店に依頼)



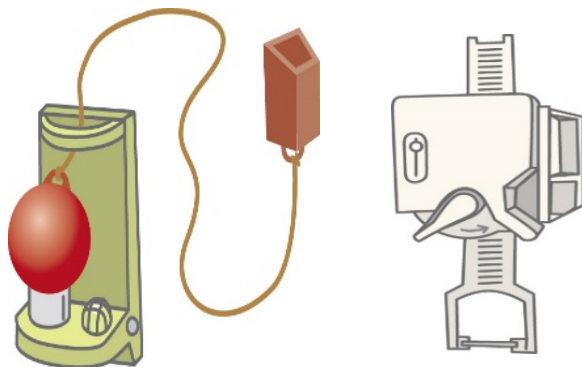
○ 増設型(感震センサー接続型)

(費用 3~4 万円・電気工事に依頼)



簡易タイプ(揺れにより重り玉が落下したり、感震センサーを連動したバネの作用で分電盤のスイッチを落とし電気を止める)

費用 2~4 千円程度 ホームセンターや家電量販店など)



コンセントタイプ

コンセントに内蔵した感震センサーが揺れを感知し、個別のコンセントの電気を遮断。家庭のコンセントに差し込むタイプとコンセントを取り替えて埋め込むタイプがある。

(費用 1ヶ所 5千円程度)

○ 設置にあたっての注意事項

- (1) 分電盤タイプなどの様に、地震発生時に家庭内の全ての電源を遮断するタイプは、医療機器等に影響があるので注意。
- (2) 夜間に地震が発生した場合、照明が消えるので、非常灯を準備してください。
- (3) 自治会、町内会がとりまとめて、感震ブレーカーを設置する場合は、設置費用の一部を補助する制度がありますので、参考資料 14 ページを参照してください。

第 21 期 保土ヶ谷区民会議
交通・災害分科会委員

副代表	宮司 弘昭
座長	杉浦 隆雄
副座長	左近 徹
//	近藤 久満
委員	新垣 純
//	一政 弘之
//	猪股 衛
//	姥ヶ崎芳子
//	柿沼 孝志
//	片山 重勝
//	金井 眞一
//	金子 佳孝
//	嘉山 晴久
//	久保田重雄
//	河野 桃弘
//	新庄 茂
//	高垣 茂夫
//	田中 紀子
//	田上 高義
//	中本 由夏
//	根本 稔
//	眞嶋 敏晴

第 22 期 保土ヶ谷区民会議
災害分科会委員

代表	小林由美子
副代表	宮司 弘昭
座長	羽根 一男
副座長	近藤 久満
//	柿沼 孝志
委員	一政 弘之
//	新庄 茂
//	伊山 俊一
//	姥ヶ崎芳子
//	江口 辰男
//	大井 正志
//	木幡 泰彦
//	高橋 明弘
//	原 泰弘
//	万徳 俊輔
//	山田 眞珠

編集者

杉浦 隆雄 宮司 弘昭

監修 保土ヶ谷区総務課

発行日 平成 31 年 2 月

